shine days

国士無双

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ｓｈｉｎｅ　ｄａｙｓ

【Ｎコード】
Ｎ６７２０Ｍ

【作者名】
国士無双

【あらすじ】
僕は朝の通勤ラッシュ真っ只中の電車にいた。
おなじみの合戦に参加しようとしたんだけれど、痴漢と間違えられてしまった。
それが、同じ高校の同級生で…

プロローグ

寿司詰め状態の電車の中。
朝の通勤&通学ラッシュ。
もっと電車の本数を増やしてくれれば、電車が3分間隔でくれれば、
いつでも空いているだろうに。
鉄道局は何をしているんだ。
俺はかれこれ10分は電車に乗っている。
乗り始めは、押し潰されそうになることはなかったが、長い間乗っていると必然的に真ん中に寄ってしまう。
そのせいで今は、ピンチなのだ。
呼吸も苦しいほど詰め寄られる。
俺は自分の空間を確保するために、朝の合戦に参加した。
ところが、
「きゃっ…んん…あ…」
「あっ！すいません！」
夢中になりすぎた、というか必死になりすぎた結果、女性に迷惑をかけてしまったらしい。
急いで平謝りし、参戦を中断。
（場所を移そう）
そう思い、扉側に移動。途中スクラップになりかけながらも、場所を確保できた。
次の駅で下車。
やっと解放される。
プシュー…
ドタドタドタ…
大勢の人間が一気に下車をする。
まるで川だ。
この駅、通勤ラッシュの人数、勢いを利用して発電も行っているら

しい。
考えた人は天才だよ。
俺は体勢を立て直し、丹羽高校に向かって歩き出した。はずだったんだけど…
何故か前に進まない。
腕を引っ張られている（正確には袖）。
見ると、女子が俺の腕を掴んでいた。
この制服だと、同じ高校だな。
……同級生か？
「やぁ、お早う。どうしたの？」
「…ちょっと、こっち来てくれない？」

☆

駅の中の公衆トイレの前。
俺が連れていかれた場所はそこだった。
朝の利用者はそれなりにいる。
「で、何で連れてきたの？遅刻しちゃうんだけど」
「あたしだって同じよ。…あんた、車内であたしのお尻触ったでしょ」
「…僕が痴漢をしたと。そう言いたいの？」
「そうよ。もしかして常習だから感覚麻痺っちゃった？」
「ねぇ…朝の通勤ラッシュでギュウギュウだったんだよ？当たっちゃうことくらいあるに決まってるよ。それが嫌なら乗らなきゃいいじゃん」
「それ、犯人の一番多い言い訳よ？」
「とにかく、僕はやってないから。当たっちゃったのなら謝るよ。ごめん」
「そんなことで許すと思ってるの？」
「じゃ、僕は行くから。単位落としたくないしね。それじゃ」

「あ、こら！待ちなさい！」
やばい！もうこんな時間じゃないか！
間に合うかな…
学校まで３ｋｍ。
残り時間３０分。
単純計算で、
３０００÷３０＝１００。
１分１００ｍか。
信号のロスタイムを計算すると、最悪の場合１分１５０ｍになる。
速歩きじゃないと遅刻確定だな。
急ごう…

☆

あれから４時間。
何とか間に合って単位を落とさずに済んだんだけど、そのせいで疲れて、授業中の居眠りで単位を落としてしまった。
±０と言いたいところだけど、普段と比べたら大幅のマイナスだ。
無事（無事ではないけど）、授業を終えて、今は昼休み。
今日は学食か、購買か。
…気分が乗らないので、学食は止めよう。
静かにご飯が食べたい。
購買でパンでも買って、静かなところで食べるか。
昼休みは１時間半あるから、ご飯を食べて、図書室で昼寝でもしよう。
さてと…何にしようかな…
菓子パンは重たいか…
サンドウィッチでいいや。
コーヒー牛乳と野菜サンドを購入し、購買を後にする。
一歩踏み出したところで、コーヒー牛乳を持った手をぐいっと引っ

張られた。
おかげで、落としそうになる。
まぁ、ファインセーブしたんだけど。
「何ですか？これから食事がしたいんですけど……」
「ええそうね。じゃ、ついてきて」
…おいおい、またか。
自分にその意思がないのにそうなってしまったら、それは事故だろう？偶然だろう？
そんなこと、普通の高校2年生なら分かるはずだ。
しかもこの丹羽高校は、自分で言うのも何だけど、結構レベルが高い。
そんな高校に入学した生徒が知らないはずがない。
可能性があるなら、入試には偶然合格して、赤点ギリギリのくせに単位は取れてて、そこまで学力のない生徒。
つまりは…
「バカ…なのかな？」
「誰がバカだって？」
「いや、なんでもないよ。こっちの話」
「何か意味ありそうな言い方ね…まぁいいわ。ついたし」
「って…屋上にいくの？」
「そうだけど？」
「……んー、ならいいか。静かそうだし」
「なら、行きましょ」
「はい…」
「じゃ、取り敢えずそっち座って。話辛いから」
飲みかけのコーヒー牛乳を一旦口から離し、言われたままに行動する。
「それじゃあ、本題に入るわ。あんた、名前は？」
「諏訪聡だけど…何で？」

「これから必要になる時が多分来るから。で、今日のは故意じゃないのね？」
「またその話か…。何度も言ってるだろ、事故だって。」
「まだ二回目なんだけど…。でも、本当に事故なのね？」
「くどいな。そう言ってるだろ？」
「ならいいや。あたし、前に本物の痴漢に遭って、すっごく嫌な思いしてさ、それ以来敏感になっちゃって…」
「そうだったのか…事情も知らずごめん。ちゃんと話を聞いておくべきだった」
「ううん。わざとじゃないならいいの。ごめんね？呼び止めちゃって」
というより、連れてこられたんだけど…
「それじゃ、僕は寝るよ。図書室で寝るつもりだったけど」
「あたしもそうしよっかな。気分も晴れたし」
「じゃ、おやすみ」
「おやすみ」
こうしてみると、空を眺めるのは久しぶりだな…
いい感じに眠気が襲ってきた。
ここは昼寝スポットになるかもね。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6720m/

shine days

2010年10月9日16時22分発行